

法人名 横浜市(公立)

施設名 横浜市左近山保育園

発表者名 (職名)	岩下 瞳 (保育士)
発表者名 (職名)	
発表者名 (職名)	

住所	横浜市旭区左近山1997		
TEL	045-351-1907	FAX	045-351-1912
メールアドレス	hi04-iwashita@city.yokohama.jp		
URL			
定員	120名	職員数	53名

発表の概要・内容

1 提案趣旨

3、4歳児の頃には、保育園に行きたがらない姿があり、行事にも抵抗感があったが、登園するとクラスで過ごすことができていたAちゃん。5歳児になると、登園時に部屋に入ることができず、集団活動はもちろん昼食時に友達と一緒に席に着くことも嫌がるなど、自分の中の様々な感情を保育士に表し、主張する姿を強く見せるようになった。そのAちゃんが“ありのままの自分を見せてもだいじょうぶ”と感じられる経験ができるように、保育士や友達が寄り添っていくかかわりを、5歳児の活動を通して実践報告する。

2 実践の内容

(1) クラス活動の中での具体的なかかわり

「クラスの一員としてAちゃんが安心して過ごせる居場所作り」「Aちゃんの好きなことを見つけることで楽しいと感じる経験を積み重ねること」無理せずにAちゃんの思いやペースを大事にした。

(2) 表現活動の劇ごっこ

「何の役やる？」と聞くと「何もやりたくない。」というAちゃん。「大道具はどう？」と聞くと「それはできる。」と言ったが、皆の前では大道具をやることはできなかった。陰ながら縄跳びを跳ぶ姿を保育士にアピールするAちゃんの姿が何度も見られたため、「縄跳びを跳ぶ役やってみる？」と聞くと少し考えて、うれしそうに「うん。」とうなずく姿があった。

3 実践から学んだこと

<かかわりを通して寄り添うこととは>

寄り添うと一言と言っても、寄り添うの中には、いろいろな形がある。劇ごっこでは「やらない。」という言葉に隠されたAちゃんの気持ちを探り、少しでも参加ができるよう工夫し、アプローチをしていった。普段の保育で見せるAちゃんの姿から、劇ごっこを“本当はやりたい”という気持ちに保育士が気づいた時、その小さな意欲に保育士がどのようにかかわっていくかを考え、Aちゃんらしく活動に参加できるようにしていった。友達の存在は大きく、友達が助けてくれるという経験を通して“ありのままの自分を見せてもだいじょうぶ”と思える安心感につながった。

日々の保育ではAちゃんが発信している思いに、どう応えていけばいいのか、保育士もたくさん悩みながらかかわっていった。楽しいと思えることが保育園で見つけられること、Aちゃんの思いやペースを大事にしていくこと、行事でのAちゃんの「やりたくない。」思いにやれること(役割)と一緒に考えること、それらを大切にかかわることで安心して自分を発揮できるようになった。

集団参加をしたがらない子どもにどう寄り添うかは、その子の表現できない思いを知ろうとすることが寄り添うことの第一歩だと感じる。保育士は「やらない。」の言葉に隠された伝えたい思いに耳を傾け、心の動きを感じ取り、寄り添うことを大切にしていきたい。

メモ